

2013年度

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

8-9月号

(通巻 147号)

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！

いきもの  
写真館



撮影：土居幸雄さん

アオスジアゲハ  
動きの速いアオスジアゲハは、蜜や水を吸っている一瞬が観察のチャンスです。ヤブガラシの花に来ていました。

P 1 ☀️ いきもの写真館  
アオスジアゲハ

P 2 ☀️ 同じ場所を何度か訪れる  
堀之内貝塚・小塚山公園  
3  
7月27日

P 4 ☀️ 花屋の花を観察する  
フヨウ

P 5 ☀️ 街かど自然探訪  
下妙典・堤防の草原

☀️ くすのきのあるバス通りから  
ハスとセミ

P 6 ☀️ むかしの写真で見る 昭和の風景  
真間山 石段からの景観

P 7 ☀️ わたしの観察ノート  
5月～6月ごろの記録

P 8 ☀️ 行事案内



# 同じ場所を何度か訪れる 堀之内貝塚・小塚山公園 7月27日

## 【樹木に依存する昆虫 セミ】

猛暑の日に訪れた堀之内貝塚は、セミの声に包まれていました。訪れた日はほとんどがニイニイゼミの声でしたが、やがてアブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシと移り変わるでしょう。林内は無数の声が重なって、全体で一つの音と化していました。木の幹を見ると、ニイニイゼミの抜け殻がびっしりとありました。

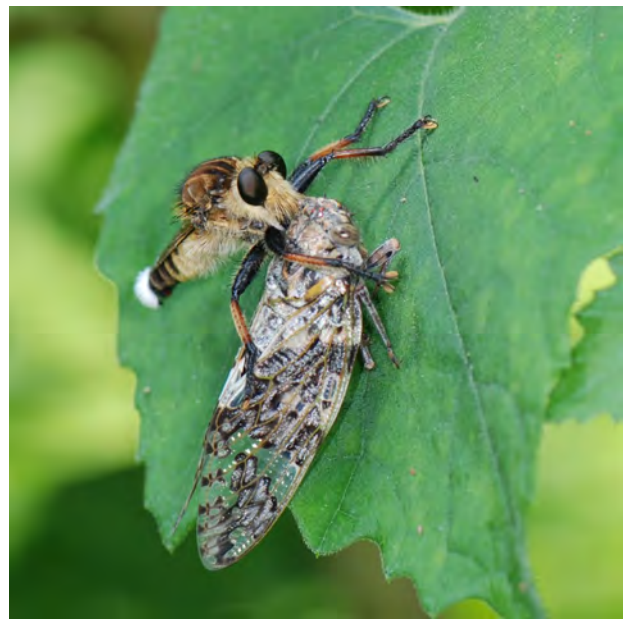
セミは、樹木に深く依存する昆虫です。産卵は幹の皮に行い、生まれた幼虫は地中にもぐって根につかまって暮らします。根から樹液を吸って成長し、地上に出て

羽化したあとも、幹にとまって鳴き、樹液を吸い、雌雄が出会い一生を終えます。堀之内貝塚に林立する樹木がどれほどの数のセミを支えているのか、想像を超える数に違いありません。

無数のセミは、餌となって生態系を支えています。この日はちょうど、シオヤアブがニイニイゼミを捕えた場面に遭遇しました。クモの巣にひっかかったヒグラシもありました。鳥にもずいぶん食べられるはずですが、「餌資源」という点では、セミは、水辺のおたまじゃくしや草むらのバッタと同じ存在です。



ニイニイゼミの抜け殻



シオヤアブがニイニイゼミを捕えた



### 【キノコの存在意義】

林の地面にはキノコの菌糸がびっしりと広がっています。菌糸は、落ち葉を溶かして栄養を得ています。光合成でもなく、他の生物を食べるのでもなく、すでに生きていないものを分解して栄養を得る「分解者」です。中には樹木の根にまとわりついて、樹木との間で栄養交換をする種類もあります。

堀之内貝塚で、マヤラン（あるいは白花品種のサガミラン）の若い実を見つけました。このランは葉緑素を失っているため光合成はせず、地中の菌糸から栄養を奪っています。いわゆる「腐生植物」です。マヤランが得る栄養分がどこから来るのか、キノコの菌糸の存在を交えて考えると、林の「目に見えない生態系」がイメージできそうです。



小塚山公園で見つけたキノコ



マヤランの若い実

### 【ヤブラン、タンキリマメ】

花は堀之内貝塚・小塚山公園とも多くはありませんでした。夏の堀之内貝塚を代表するキツネノカミソリは花茎がまだ数本で、小塚山に群生するササクサも花穂が伸びていませんでした。淡いピンク色の花を咲かせるヤブランは堀之内貝塚に多く、小塚山公園でも少し見られました。

タンキリマメというのは黄色い小さな花を咲かせるマメ科のツル草です。堀之内貝塚の外周フェンスにあって、ちょうど花と若い実が見られました。花はそれほど見栄えしませんが、豆が2個ずつ入った実はデザイン的にユニークで目を引きました。



ヤブラン



タンキリマメの若い実

## 花屋の花を観察する

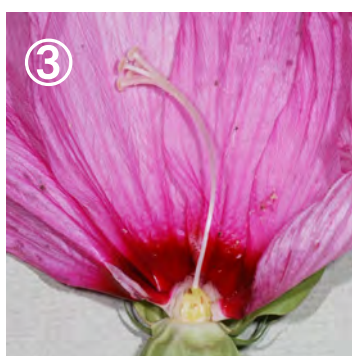
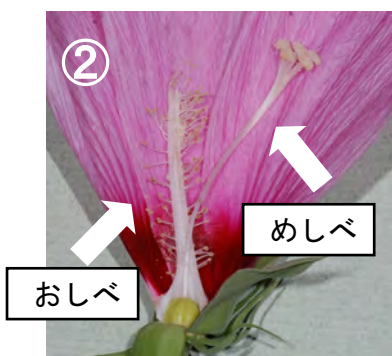
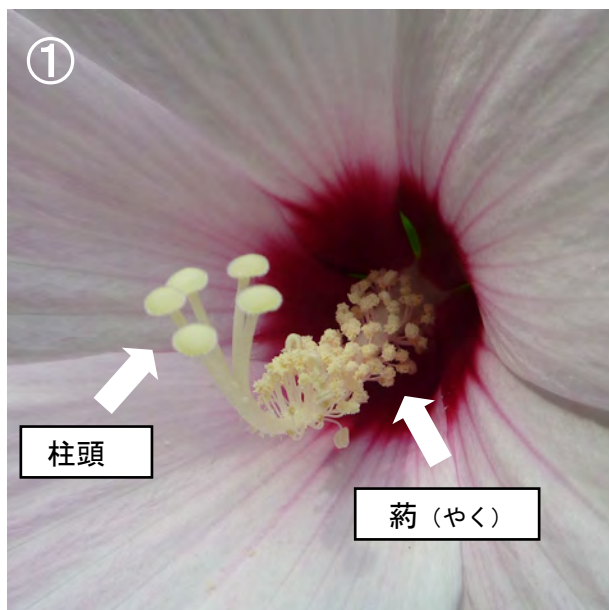
# フヨウ



フヨウは、ムクゲやハイビスカスと同じ仲間の植物です。夏のお花屋さんに並ぶのはハイビスカスですが、公園ではフヨウやムクゲの花が目につきます。フヨウは「アオイ科」に属します。アオイ科の花は、「しべ」の作りには特徴があります。「おしべ」が互いにくっついて中空の筒を作り、その中を通過して「めしべ」が伸びているのです。花粉ができる「葯」は、おしべの筒のまわりにたくさん

ついています。一見すると、めしべから花粉が出ているようにも見えますが、めしべは筒の中を通過しているのです。

フヨウのおしべの筒は、花びらとくっついていて、ですから花が落ちるときは、花びら、おしべの筒、めしべが一体になって落ちます。落ちていた花殻をていねいに開いて、中のめしべを先端から引っ張ると、すっと抜き出すことができます。



- ① 「しべ」の全体
- ② おしべの筒からめしべを引き出した
- ③ おしべの筒を取り除いた
- ④ めしべだけ抜けた





# 街かど自然探訪

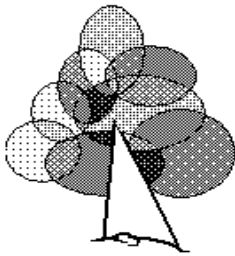
おじゃまします!

## しもみょうでん 下 妙典・堤防の草原

7月下旬、妙典少年野球場を抜けて、江戸川放水路の土手を訪れました。街中の道端では5月頃に見られるヘラオオバコの花が、ちょうど花盛りでした。堤防の土手は、年に数回草刈りをして、常に草原の状態を維持しています。そのたび草々は伸びなおすので、常に瑞々しい草原です。他所では、葉も茎も固くなっているヨモギが、春先のような若芽でした。柔らかでおいしい草を狙ってか、大きなトノサマバツタが、草の間から飛び出してきました。



△堤防の草原  
ヘラオオバコの小さな白い花々は、輪になって茎を囲み、冠のように見えます。



くすのきのあるバス通りから No.89

## ハスとセミ

今年は、ハスの種を手に入れ育てています。種の先を紙ヤスリで削り、芽を出させました。かなり固かったです。「そろそろ、ハスの花が咲いているはず」と法華経寺の裏の龍王池に行ってみました。たくさん蕾がありました。咲いているものは少なく緑色の花のあとの物も少しありました。ハスの葉の上を胴が太くて赤いトンボがたくさん飛んでいました。シヨウジョウトンボだそうです。ニイニイゼミが鳴いていました。次の日八幡付近でニイニイゼミが鳴き、その次の日八幡付近と農協本店付近でミンミンゼミが鳴いていました。「死んだアブラゼミが道



路にあった」と娘がいうので「鳴き声を聞いていないのに。」と私。どうしたのでしょうか。自然博周辺ではヒグラシも含め既に鳴いているそうです。

(M.M.)

むかしの写真でみる

# 昭和の風景

昭和46（1971）年 撮影

## 真間山 石段からの景観



写真提供 岩瀬徹氏

真間山の南側には、長い石段があります。斜面を斜めに通る坂も別がありますが、この石段を通ってこそ、真間山に來たという実感が得られる、そんな象徴的な石段です。

写真は、石段の上から「見下ろす」アングルで撮影されました。この石段を下りると、「真間の入江」があったであろう低地に至り、「継はし」を経て大門通りに続きます。石段の両側は急な崖になっていて、そこに真間山を縁取る木々が生育しています。写真では、石段の左右にマツがあることがわかります。現在はうつつそうとした森ですが、かつてはマツが多い林であったことが偲ばれます。この数十年で、木々の種類はずいぶん入れ替わりました。

# わたしの 観察ノート

## ◆真間山周辺より

- ・南側斜面の下の小さな庭で、ツマグロヒョウモンの幼虫(4cm)を見つけました(4/4)。ビオラの葉を盛んに食べていました。まだ寒い風が吹く中、冬越しはどんなふうにしたのでしょうか。
- ・南側斜面林にチョウの姿を見つけました。アゲハチョウ(4/9)、クロアゲハ(4/28)、アオスジアゲハ(4/28)、ツマグロヒョウモン(5/1)、ムラサキシジミ(5/3)、など。陽差しをあびてとんでいました。
- ・弘法寺に登る坂道のセンダンの花が満開でした(5/22)。ひとつひとつは小さな花ですがまとまると紫色のかたまりになってみごとです。

## ◆里見公園より

- ・去年の夏、里見公園で分けてもらった鈴虫の成虫からうまれ、冬越しした卵からたくさんの幼虫が孵化し始めました(6/3)。大きくなってきれいな鳴き声をきかせてくれるのを楽しみにしています。

以上 M.T.さん

## ◆堀之内緑地より

- ・アブラゼミが鳴いていました(6/30)。6月にアブラゼミの鳴き声を確認できたのは初めてです。

K.H.さん

## ◆市内某所より

- ・木漏れ日の雑木林に、キンランが60数株点在して咲いていました(5/1)。別の所では、ギンラン3株、ササバギンラン2株が咲いていました。

谷口浩之さん(北国分在住)

## ◆柏井雑木林より

- ・キビタキのペアを観察しました(6/10)。雄は囀りも聞くことが出来ました。

鈴木弘行さん(船橋市在住)

## ◆坂川旧河口一帯より

- ・新堤防を横切ったオオタカの成鳥1羽が江戸川までも越えて、対岸の河川敷から飛び立ったカワラバトの群れに襲い掛かろうとしましたが、ハシブトガラスに騒がれて目的を果たせず、国府台台地へとUターンしてきました(5/26)。どうやら日常的に川を渡っているものと思われそうですが、オオタカにとっては至近距離なのでしょうね。
- ・強い南風に頭を向け、オギ原に面した新堤防法面から飛び上がったヒバリ1羽が、強風に流されるようにバックして新堤防を越えて飛びつづけました(6/19)。まさに自由自在です。

## ◆菅野より

- ・雨の朝、我が家の2階の窓から、前面道路の電線と、その先の住宅のアンテナにとまるエナガ2羽の姿が見えました(6/12)。ところが、2羽が飛び去ると、その後を追って、次々と5羽前後のエナガが飛んでいきました。近隣で繁殖した子連れだったようです。2年前ほどから、菅野2丁目界限でもエナガの子連れを見るようになりました。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

大型連休頃から、乾いた晴天が続きました。例年より早い梅雨入り宣言後も雨は少なかったのですが、6月25日に時間雨量39.5mmの記録の激しい雨が降りました。





# 行事案内



## おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

親子で楽しむ自然観察です。

- ・場所 自然博物館(市川市大町)周辺
- ・時間 午前中 1時間半～2時間
- ・定員 各回とも、先着20名、親子対象です。

テーマ	日にち	受付開始日
昆虫と水辺のいきもの	9月15日①	8月17日より
どんぐり拾い	10月13日①	9月21日より

### お申し込み方法

受付開始日以降に  
往復はがきで参加者全員の  
住所、氏名、年齢、電話番号、  
返信面に返信の宛先を明記の上、  
下記までお申し込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地  
自然博物館「〇月観察会」係まで

## 長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 8月3日①、9月7日①、10月5日①、  
午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

## 季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
初秋の江戸川土手	9月22日① 午前10時～11時30分	里見公園下 江戸川土手
秋の野道	11月10日① 午前10時～11時30分	ふれあい農園～市営霊園

## 名前をしらべる会

お申し込みの必要はありません

あなたが作った植物・昆虫・貝・岩石などの標本に、専門の先生が名前を付けます。

- ・日にち 8月25日①
- ・受付時間 午前10時～11時30分、午後1時～3時30分
- ・会場 市川自然博物館(市川市動物園内)

## 長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。(雨天中止)

- ・日時 9月29日①、10月27日① (8月は休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

## 野草名札付けの

お手伝いをしていただきませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 8月4日①、9月8日①、10月6日①  
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第25巻 第3号 (通巻第147号)

平成25年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>